

普及活動情勢報告（平成30年4月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

更なるハウス内環境の「見える化」の推進～新しい環境測定装置説明会の開催～



メーカーによる説明

J A土佐くろしおがメーカー2社に委託し開発した環境測定装置について、営農指導員、普及指導員を対象に操作や特徴、バージョンアップ等についてのメーカー説明会を4月17、27日に開催しました。操作に関する要望やデータの収集・活用方法などについて、意見交換することができ、測定装置の未導入農家への導入推進に向け、J A指導員、普及指導員、メーカー間で有意義な情報の共有となりました。

農業改良普及課は、ハウス内環境の「見える化」の推進が経営安定につながるよう今後も支援します。

シシトウの側枝を間引いて、春先から無理ない作業を ～労力不足対策を実証開始～



主枝を残し側枝を折り取る作業を実施

3月28日に、農業改良普及課がシシトウとミョウガの複合経営を行う農家のほ場で、シシトウの側枝を間引く作業を行いました。

この作業のねらいは、春先からの収穫作業労力が軽減されることによる、労力の適正化と品質向上です。農家から、「ミョウガが忙しいときに無理をしたくない。枝を折る作業は大変だがやってみたい。」という希望があり、今回は農業改良普及課の職員が、間引きの作業労力を把握するため、ほ場の一部で作業時間を計測しました。

今後は農業改良普及課と農家が協力し、実証農家による作業記帳等を通じて、作業の適正化に向けた効果を明らかにしていきます。

栽培管理の向上を目指して！～ミョウガ部会総会～



総会の様子

J A津野山ミョウガ部会の総会が3月22日に開催され、夫妻での参加も含め19名の生産者が参加しました。

農業改良普及課は安定した収量を得るために重要となる春季の温度管理や環境測定機器の利用による湿度を主体とした管理ポイント等について説明しました。

生産者からは「湿度を主体とした説明は勉強になった」という声が多く聞かれ意見交換を行う場となりました。

農業改良普及課は、今後ともJ Aと連携して、津野山地域におけるミョウガの安定生産に向けて支援します。

昨年の収量を上回るぞ！～梶原町「龍王宮農組合」がフキ・チャーテを定植～



今年は増産させるぞ！

4月5・6日、梶原町にある集落営農組織「龍王宮農組合」が、今年度の粕漬け用のフキ・ハヤトウリ（チャーテ）の定植を行いました。

フキは高温・乾燥を嫌うことから、週間予報を参考に、当日は小雨が降る中での定植となりました。「龍王宮農組合」としては、今作は反収を高めていき、前作の収穫量を上回ることを目標に取り組んでいます。

農業改良普及課は、今年度のフキの生育状況を確認して、その都度、栽培に関する指導を行いながら、目標に近づけていけるよう支援します。

新茶の収穫開始に向けて



4月13日の収穫開始に向けた座談会

4月11日午後6時から、津野町桂地区で新茶の収穫に向けた座談会が開催されました。当日は12名の生産者が集まり、JAから「前日の役員による巡回の結果、13日から茶の受け込みを開始することが決定した」との説明を受けました。13日からの受け込みは過去7年間で最も早い受け込みになります。

農業改良普及課からは、出荷の前に生産者によるGAPの点検シートのチェックを行ってもらいました。とくに異物混入に関しては、回収にかかる多額の費用負担と産地の信頼を損なうことにつながることを強調しました。引き続き、本格的な収穫作業の開始に向けて支援を行います。

園芸部の活動目標を確認～JA津野山園芸部総会の開催～



平成30年度の活動目標を確認

3月27日にJA津野山営農センターでナス、ミョウガ、シシトウ、土佐甘とうの園芸部各部会員と関係機関の46人が出席し、JA津野山園芸部総会が開催されました。

総会では平成30年度の事業計画や予算について協議し、担い手対策や市場及び実需者との交流による新規需要の検討など活動目標が承認されました。

農業改良普及課からはGAPを取り巻く状況や高知県版GAPの取組について説明しました。

農業改良普及課は、活動目標の達成に向けて支援していきます。